

環境保護の 決意新たに



海づくり大会の放流行事でお手渡しされたウシモツグが、黒屋の天王池など市内4カ所に放流されました。ウシモツグを守る会の三輪芳明会長や下有知小5年の田原晃成君、瀬尻小6年の徳重実央さ

んらが順番に回り、それぞれ放流のセレモニーをしました。地元住民らとともに約60匹を流し入れ、皇后さまの「お願いします」のお言葉を胸に大切に育てていくことを参加者全員で誓いました。

あんな事、こんな事

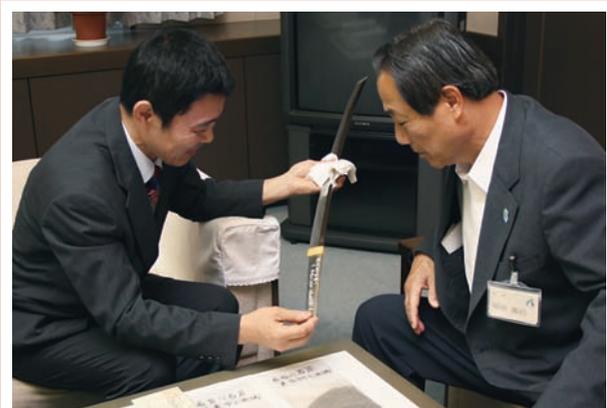


見えない「風」を描こう

関市ゆかりの抽象画家・篠田桃紅さんの墨の表現に挑戦する授業が、旭ヶ丘小学校で行われました。4年生児童が桃紅さんの描いたびょうぶ絵などを鑑賞。描き方について考え、筆を強く振ったり、水で墨を薄めたりしながら描きました。また全員で体育館いっぱいに広げた約40メートルの和紙に「風」をイメージして描き込み、大作を完成させました。

長良川ゆかりの日本刀

海づくり大会の開催を記念して、関伝日本刀鍛錬技術保存会（井戸誠嗣会長）から日本刀1振りが寄贈されました。これは、刀匠の吉田研さん（刀匠名・兼久＝富加町）が長良川河川敷で取れた砂鉄を使って制作したもので、長さ79.2センチ、重さ約1キログラムあります。裏に「第三〇回全国豊かな海づくりぎふ長良川大会開催記念」の銘文が入っています。





みんなで楽しくダンス

養護訓練センター、武芸川ことばの教室、中之保親子教室合同の大運動会が開催されました。オープニングで「ミナモ」「ヤマリン」「はもみん」が登場すると、子どもたちは名前を呼んで歓迎。一緒にダンスを踊ったり、抱きついたりして喜んでいました。トンネルをくぐりアニメのキャラクターと握手してゴールを目指す競技など、家族で楽しめる種目ばかりで、会場は参加者の笑顔と歓声であふれました。

タグを目掛けて駆け回る

「ぎふ清流国体」に向け、安桜小学校でタグラグビー出前教室が開かれました。児童らは、タックルの代わりに左右の腰に付けられた布「タグ」を取り合って攻守交代するルールを覚え、タグを奪おうと追いかけたり、取られないよう全力疾走したりと元氣よくグラウンドを駆け回りました。転倒する児童もいましたが、みんな楽しい表情を見せていました。



可憐な初夏の情緒

緑いっぱいの山里に、甘い初夏の香りを漂わせるササユリ。人々を癒やしてきたササユリは近年減少しているといわれています。摘んで持ち帰れるほどの群生には久しくお目にかかれません。ササユリの減少は、自然が壊れていることの証であるとの意見もあります。道の駅平成・ふれあいドームで開催したむぎササユリまつりで「人と自然との共生」を呼びかけました。

勝っても負けても誇らしげ

毎年恒例の「わんぱく相撲闘場所」がわかくさ・プラザで行われました。まわしを締めた児童たちは、優勝目指して気合十分で土俵に上がると、相手を押し出したり、足を掛けて転ばせたりなど迫力ある相撲を見せました。負けて悔しがったり、友達を一生懸命応援する児童の姿などが見られ、会場は熱気に包まれていました。



こぼれ話



天気が心配された「第30回全国豊かな海づくり大会」。池尻での放流・歓迎行事では、少し雨に降られた場面もありましたが、前日のような強い日差しはなく、風も吹いていたので、放流会場で待っていた招待者の皆さんや私たち関係者はいくらか助かったのではないかと思います。

私も放流会場にいましたが、カメラと職場の先輩から借りたバズーカのような望遠レンズを雨に濡らしてはいけなと、雨がっぱを2種類、ビニール袋とタオル

を数枚ずつ用意し、雨が降らないように祈っていました。

本町通りでは「せき海づくりフェスタ」が開催され、多くの人でにぎわいました。市では、市民の方12人を「市民カメラマン」に委嘱し、フェスタの様を撮影していただきました。後日提出していただいた写真は、楽しい催しの様子や参加者のすてきな表情がわかる素晴らしいものばかり。日が照りつける土曜日も、にわか雨が降った日曜日も、一日中ボランティアで活躍していただいた市民カメラマンの皆さんに厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。